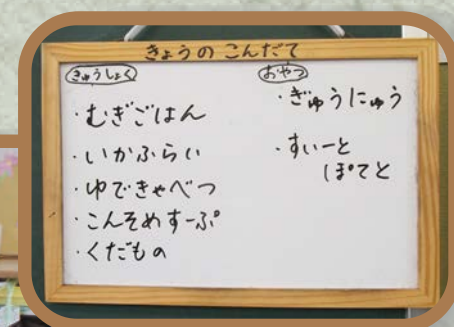




第35号

平成26年12月1日発行

The Taki Town
Council Newsletter



▲ 外城田保育園での風景

CONTENTS

- | | |
|---|---|
| ■ まちづくりにどう活かされた私たちの税金 …… P2～3
平成25年度一般会計など決算を審査、承認 | ■ 「町政のここを問う」／一般質問 …… P8～13 |
| ■ 平成25年度 決算審査 監査委員報告 …… P4～5 | ■ RDF広域連合 …… P14 |
| ■ こんなことを決めました …… P6 | ■ 編集室から …… P15 |
| ■ 予算決算常任委員会報告 …… P6 | ■ 議会のうごき …… P15 |
| ■ 各常任委員会で審議 …… P7
教育民生常任委員会・総務産業土木常任委員会 | ■ インタビュー「多気のみちかどから」 …… P16
我が家は「Wツイン」 田村香里さん |
| | ■ たきの風 …… P16 |

私たちの税金の行方！

9月
定例会

平成25年度一般会計など 決算を審査、承認

多気町議会第3回 9月定例会
平成26年9月17日～26日

基金（預金）

43億5,203万円

（前年比：+3億882万円）

*一般会計・特別会計の合計

町債（借金）

141億5,127万円

（前年比：+4億1,998万円）

*一般会計・特別会計・企業会計の合計

一般会計

歳入（財 源）

84億6,437万円

歳出（使い道）

80億5,840万円

翌年度繰越金

4億 597万円

主な歳入 財 源

千円以下切りすて

町 税

町民税や固定資産税等の税金

25億3,909万円

使用料等

事業に対する地元負担金や施設の使用料など

2億2,599万円

繰 入 金

基金（町の預金）の取り崩しや他会計から繰り入れるお金

1億2,818万円

地方交付税

行政運営に国から交付されるお金

23億1,378万円

国・県支出金

国県が負担するお金

9億6,825万円

町 債（町の借金）

主に建設事業に充てるために借り入れる借金

8億9,128万円

まちづくりにどう活かされた

主な歳出 使いみち

千円以下切りすて

議会費

7,832万円

- 議会だより 120万円
- 議員報酬 4,162万円
- など

総務費

12億1,346万円

- 町長交際費 55万円
- 自治会関係費 4,183万円
- 企業立地奨励金 3,120万円
- ケーブルテレビ 1,370万円
- 町民バス運行 1,713万円
- 防災行政無線 1,796万円
- など

民生費

19億4,982万円

- 障害者福祉 1億8,771万円
- 高齢者福祉 5,464万円
- 乳幼児など福祉医療 1億646万円
- 保育園関係 4億2,206万円
- 児童館経費 5,050万円
- 介護、国保、後期高齢医療特別会計への繰出 5億7,157万円
- など

衛生費

5億3,377万円

- 予防接種(乳幼児学童、インフルエンザ、子宮頸がん、肺球菌、ロタウイルスなど) 3,113万円
- 健康診断、がん検診、健康増進 2,569万円
- 乳幼児・妊婦検診、特定不妊治療など 1278万円
- 南勢水道負担、水道会計助成など 8,509万円
- ごみ処理費(美化センター、RDF) 2億2,867万円
- など

農林水産業費

10億2,303万円

- 集落営農推進助成 1,275万円
- 担い手推進助成 319万円
- 農地集積推進助成 980万円
- 国営宮川用水負担一括納付 5億8,348万円
- 鳥獣害対策 2,274万円
- 森林環境創造事業 1,496万円
- など

商工費

1億2,534万円

- 商工会助成 900万円
- 地域経済循環創造交付金 5,000万円
- 情報発信番組作成 1,925万円
- 指定管理(元丈の館、緑の交流空間) 520万円
- 自転車振興事業 1,043万円
- ふるさと村修繕、備品整備 798万円
- など

土木費

10億8,168万円

- 地積調査(丹生、下出江) 3,051万円
- 天啓の家管理 312万円
- 町道維持 8,851万円
- 町道新設改良 1億5,744万円
- 交付金事業(橋梁工、舗装工) 2億2万円
- 公園管理 1,184万円
- など

消防費

3億6,453万円

- 広域消防組合負担 3億2,304万円
- 消防団経費 3,580万円
- など

教育費

9億4,846万円

- 小学校費 1億779万円
- 中学校費 9,145万円
- 公民館費 2,090万円
- 図書館費 4,811万円
- 文化会館費 3,632万円
- 給食センター改修 2億9,165万円
- など

災害復旧費

94万円

- 農地災害復旧1件

公債費

7億3,900万円

- 借入金元利償還金

※各数値は、千円以下を切りすてしたことに、合計が一致しません。

平成25年度 特別会計・企業会計決算

会 計 名	歳入(収入)	歳出(支出)
国民健康保険特別会計	18億 563万3千円	16億8,020万0千円
後期高齢者医療保険特別会計	3億2,477万9千円	3億2,381万1千円
介護保険特別会計	15億3,705万1千円	15億1,470万7千円
住宅新築資金等貸付特別会計	1,290万7千円	1,290万7千円
農業集落排水事業特別会計	2億 237万6千円	1億9,345万1千円
戸別合併処理浄化槽整備事業特別会計	1億4,934万0千円	1億4,173万1千円
郡指導主事共同設置事業特別会計	1,174万9千円	1,077万9千円
水道事業会計	8億2,223万2千円	8億3,213万1千円
工業用水道事業会計	3,148万4千円	2,231万5千円
下水道事業会計	4億3,534万1千円	4億2,329万3千円

※上下水道事業会計において不足する額は、過年度分損益勘定留保資金等で補てんしました。

監査委員報告

平成25年度多気町一般会計決算・特別会計決算 および各基金の運用状況を審査

代表監査委員 岡井 貞幸
議選監査委員 中森 一秀

①審査の対象・期間・手続き

- ◇平成25年度一般会計および特別会計、歳入歳出決算と決算付属書類、各基金の運用状況を示す書類
- ◇平成26年7月15日から7月24日(審査5日間)
- ◇この審査に当たっては、提出された各会計歳入歳出事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書および一般会計、特別会計、決算資料並びに各基金の運用状況を示す書類について、所属職員から説明を聴取したほか、会計管理者所管の関係帳簿、現金、預金有価証券等の残高計数を確認し照合した。

②審査の結果

○審査に付された各決算書、明細書、各調書など関係書類は法令に準拠して作成されており、決算計数は関係帳簿、証拠書類と照合した結果、誤りのないものと認められた。

また、各基金の運用状況を示す書類の計数についても、関係帳簿、証拠書類と照合した結果、誤りはないものと認められた。

決算の規模は次のとおり

決算規模（千円）

区 分		一般会計	特別会計	合 計
予算現額		8,431,314	4,055,218	12,486,523
決算額	歳入額	8,464,371	4,043,835	12,508,206
	歳出額	8,058,400	3,877,586	11,035,986
差引額		405,971	166,249	572,220

○平成25年度一般会計決算額を前年度に比べると、歳入額では3億5,818万5千円（4.4%）の増、歳出額8億4,587万5千円（11.7%）の増となり、決算規模は大きくなっている。

収入未済額（監査委員指摘事項）

○平成25年度末における収入未済額は5億2,812万4千円となった。一層の収納促進を図るとともに、新規滞納者を出さないため努力が必要。特に時効の経過したものについては、法的処分（不能欠損等）の処置を更に講じられたい。

平成25年度主な基金の残高状況

▽財政調整基金	21億7,397万3千円
▽減債基金	5億8,649万9千円
▽教育、福祉施設建設整備基金	4億8,856万2千円
▽ふるさと振興基	2億2,380万5千円
▽福祉基金	2億 400万8千円
▽シャープ国際交流基金	1億4,612万円
▽その他基金（21基金）	5億2,905万8千円

○類似基金については整理されたい。（監査委員指摘事項）

一般会計実質収支調書

区 分	金 額
1 歳入総額	8,464,371,328円
2 歳出総額	8,058,399,998円
3 差引額	405,971,330円
4 翌年度へ繰り越すべき財源 （繰越明許費繰越額）	169,927,000円
5 実質収支額	236,044,339円

こ ん な こ と を 決 め ま し た

第3回定例会での審議（抜粋）

国の新制度「社会保障・税番号」制を

27年から導入

国庫補助金受け入れに

2,823万円の補正予算を計上

新しい制度は、マイナンバー（11個人番号）とされる12ケタの異なる番号が国民一人ひとりに割り当てられ、社会保障・税・災害対策に限定した行政サービスを行なおうとするもの。27年10月から全国民に番号が通知され、翌28年1月から行政手続きをするうえで、マイナンバーが必要となる。

使い方の例としては、社会保障（年金・医療・福祉・労働など）税（確定申告など）災害対策（被災者救済支援金の受給など）がある。（詳細は町総務税務課へ）
議会への説明では、この制度のメリット、デメリットをいくつか示されたが、個人情報保護は大丈夫かなど不明点を指摘する発言も出たが、補正予算はシステムの導入だとして全会一致で承認した。

農業関連「災害復旧費」補正予算

合わせて3,250万円を充てる

農業用施設災害復旧費に2,000万円、農地災害復旧費に200万円を計上、いずれも工事請負費である。更に、道路橋梁災害復旧費には1,050万円を計上同じく工事請負費である。

また、土地改良事業費として、849万円、その主な事業は、県単土地基盤整備事業、県営ため池事業、土地改良施設維持管理適正化事業（宮川用水分）、県単予防保全調査・補修事業であり、いずれも早急な対応が必要であるとし全会一致で承認した。

その他、「国民健康保険特別会計」では、保険給付費（療養諸費及び高額療養費）に3,260万円、償還金・還付加算金と予備費については3,034万円の計上を認め承認し、農業集落排水事業および戸別合併処理浄化槽の各特別会計についても全会一致で承認した。

予算決算常任委員会報告

山口 英子 委員長（委員12名）

第3回定例会において、

本委員会に付託された議案15件を部署別に4日間精力的に審査

審議案件

決算の審査

平成25年度一般会計決算の認定、以下特別会計及び事業会計決算認定全11会計の審査を行った。

一般会計の審査において、委員から鳥獣被害対策の充実を考えるべき等の意見があった。

採決

決算案件全てにおいて全員賛成で認定

補正予算の審議

平成26年度一般会計補正予算以下特別会計、事業会計補正予算5件を審議

一般会計歳入では、2億7,251万円の追加補正である。前年度の繰越金、地方交付税の増による措置が主であり、歳出では、基金積立金に1億9,419万円充当見込みである。

採決

補正予算案件全てにおいて、全員賛成で原案可決。

教育民生常任委員会報告

東山 義美 委員長（委員6名）

今回の9月定例会において、本委員会に審議を付託された議案は条例制定3件、学校教育にかかる請願5件が提案された。国の「子ども・子育て支援新制度」が、平成27年度の春に本格スタートすることから、条例化し事業計画や施設・事業の基準などを策定しようとするもの。その概要は、次のとおり。

- ①幼稚園と保育所のいいところ、教育と保育を一体化にした「認定こども園」の普及を図る。
 - ②保育の場を増やし、待機児童を減らして、子育てしやすい、働きやすい社会環境をつくる。
 - ③幼児期の学校教育や保育、地域のさまざまな子育て支援の量の拡充や質の向上をすすめていく。
 - ④こどもが減ってきている地域の子育てをしっかりと支援をする。
- 本委員会では、右記に関する条例3案を慎重審議し、少子化対策には重要との意見を踏まえ、本会議において全員賛成により可決・成立した。
- また、学校教育にかかる請願5件が、多気郡PTA連合会、多気郡小中学校校長会、三重県教職員組合多気支部の3組織から議会議長宛てに提出されたので審議した。

①「義務教育費国庫負担制度の存続

を求める」請願書。

②「教職員定数改善計画」の着実な実施と教育予算の拡充を求める」請願書

③「保護者負担の軽減と修学支援に関わる制度の拡充を求める」請願書

④「防災対策の見直しおよび充実を求める」請願書。

⑤「総合的な学校安全対策の充実を求める」請願書

以上の請願書のうち⑤の請願書は、現在の社会状況から未来ある子どもたちの安全が確保されるべきとの文面である。特にこの1年間で大問題となってきた「危険ドラッグ」とスマホでの「LINE」被害に触れ、対策が急がれるとして、すべての請願は委員全員が賛成し本会議でも可決ののち、国に多気町議会からの意見書を送付した。

総務産業土木常任委員会

木戸口 勉幸 委員長（委員6名）

第3回定例会において、2議案が付託され審査を行った。

議案

備品購入契約の締結

メディアコンバータは、現在、松阪ケーブルの線（光ファイバー）を利用しデータをやり取りしているが、役場内全部署は銅線ケーブルの形であり、両方を繋ぐための変換する備品。

行政の予定価格が、1,632万2千円（42台分）に対し、落札価格が868万1千円とほぼ半額での落札（松阪電子計算センター）であった。

質疑 役場の予定価格と大きなずれがあるが、どうしてなのか。

応答 見積もりを取り精査し、予定価格を決めている。今回、台数が42台と多かったので半値ほどになったと考える。

質疑 入札業者7社中3社が入札辞退であるが、実績のある業者であったのか。

応答 いずれの業者も過去に実績のある業者である。

委員会に於き、安く購入できたのは望ましく全員賛成で可決。しかし、今後予定価格の算出にはさらなる努力を申し入れる。

町道の認定（2路線）

①、町道2872号線65m（上朝長）

②、町道5191号線37m（色太）

建設課説明―2路線とも地元要望による。

①、朝長は、堤防の下を改良し、道路を新設する。

②、色太は、現農道を町道に変更。

2路線とも、町道認定と全員賛成で可決。

町政のこころを問う！ 第3回定例会 6人が一般質問

利用が増える放課後児童クラブ、今後の対応はどのように考えているのか

答 現施設で面的には余裕があるので、定員について増やす計画である

吉田 勝 議員

問

町の放課後児童クラブは、久保町政になって平成24年度に新たに建設された児童館の中で、公設公営で運営され、その積極的な子育て支援対策が評価されたが、わずか2年少々しか経たない中で、町長から「予想もしていなかった入所の需要があり、収容定数的にも課題が見えてきた。今後は、入所制限を検討していかなければならない。」との発言があった。これは余りにも見通しの甘さがあったのではないか、そしてまた、当初より福祉のまちづくりを掲げる久保町政の方針に大きなブレを感じる。

あたかも国では少子高齢化の中で、少子化対策として積極的

規模な子育て支援施策を進めようと、関連法の整備がおこなわれ、来年度より施行されようとしている。このような中、町長の取り組みについての発言は、期待を裏切るもので現行より行政サービスが低下することを意味する。

国の子育て支援事業が大きく動き出そうとしているこの時、多気町としては、これらに増した子育て支援策を打ち出し、若いお母さん方やお父さん方に「多気町は子育て支援対策が充実して安心して子育てができる町だ。魅力ある町だ。住んでみたい町だ。」と言っていただけ町づくりを目指すべきではないか。

答

(町民福祉課長)

現在の放課後児童クラブの利用については、平成25年度で57名、そして本年度9月現在で73名の状況である。

今、国の方針により「子供子育て支援5カ年計画」を策定中であるが、放課後児童クラブの利用が増えるとの想定のもと、面的には現施設に余裕があるので、集团的要件でクラス増加などの見直しを行い、定員を増やす計画としたい。

答

(町長)

町では多くの施策に取り組んでいるが、今後、子育て支援については、もっとその割合を増やしていかなければならない。地域に合った町づくりと子育て支援を行っていく。



◀利用の増加でにぎやかな多気放課後児童クラブ

県道1119号線松阪度会線の バイパス整備の促進を

答 用地等の難しい問題が解決されれば順次対応

問

野中から多気方面の改良については、伊勢多気線へ接続してから10年以上経過し、外城田地区としては、早い時期に当バイパスが整備着手されると期待していたが、未だ具体的な話が出てこない。

現県道は、小学校の通学路としても利用しているが、見通しが悪いうえ狭い箇所が多く登下校時は、危険な状況にある。何とか、当バイパス建設が一日も早く事業化になり着手できるよう地元は期待しているところであり、バイパス建設に対する町長並びに担当課長の見解を伺いたい。

答

(町長)

野中から多気間については、用地等の難しい問題が解決すれば要望していく。現在施工中の改良事業が26年、27年度となったので

木戸口 勉幸 議員

その完了を待つて次の改良工事に入る方針であり用地協力が得られたところから着手していく予定である。まずは、対策委員を選出して立ち上げていただきたい。事業採択は100%の用地確保が不可欠である。なお、成川、野中、田中、森荘地区は側溝に蓋をして子供たちの安全確保に努めている。

答

(建設課長)

東池上については、JRRと家屋が密集していて難しい。ふるさと農道に接続するところまでまず考えていき



外城田小学校付近

県道伊勢多気線(四神田・野中間) 歩道工事・早期完成の見通しは

答 早急に完成できるよう県に要望していく

問

県道伊勢多気線の歩道工事事業は、順調に推移してきたところである。しかしながら着手してから4年が経過した現在、未施工区間がかなり残っており現実問題として本年度完成できるのか。当該線は、交通量が非常に多く、特に、四神田池下が一番危険な個所で未施工となっている。

答

(町長)

歩道工事は、用地買収3年、工事1年となっていたが、予算関係上1年延びることになった。早期に完成できるよう県に要望していく。

定住促進の取り組みで人口減少に歯止めを

答 あらゆる施策を活用して減少の歯止めを止める思いである

問

2008年からの多気町第1次総合計画は、本年度7年目に入り2017年には政策人口2300人を加え17,100人を目標としている。今後の人口を左右するのは転出入の増減であり、その取り組みの政策について町長の考え方を伺いたい。

答

(町長)

如何に転入を図り、転出を抑えるか、また、今まで目指した町づくりの施策(医食同源等)が人口の減少を抑えるか、町民のみなさんと協力して減少に歯止めをかけていきたい。

保育園と小中学校の食育指導計画 残食のないおいしい給食の提供を

答 町の食育指導指針により栄養価とバランスを考えた給食を進めていく

問

身体の発育段階にある保育園児や児童生徒への食育指導は極めて重要であるが、町における給食提供の方針を問う。

また「残食」は、子供たちの好き嫌いを知るためのバロメーターでもあるが、町の指導上の対応は

答

(教育課長)

町では「食に関する指導指針」を毎年作成し学校給食センター運営委員会に諮り運用している。本年度の指針では、地場産物の使用割合を高める目標値を40%とし本年度の実績は43%である。

給食の残食率は把握してないがご指摘の通り、おかずや給食の種類により食べられていない傾向もあり、食育上の栄養摂取の観点からも残食を把握し今後に活かしていきたい。

中森 一秀 議員

答

(町民福祉課長)

各保育園では、年齢や季節に合わせた食育を実施している。食育の意味は、単に子供たちの空腹を満たすための給食ではなく、健康な心・体を育て、自然の恵みと食材や調理をする人への感謝の気持ちを育み「みんなでおいしくたべる」ことを基本に楽しい給食に努めている。残食したものは家へ持ち帰ってもらい家庭での好き嫌いの食育に活かしている例もある。



「みんないっしょの給食
うれしいな・たのしいな」

問

過日、新潟県三条市教育委員会が学校給食の基本食材である「牛乳」が、保護者などから「ご飯に牛乳は合わない」「牛乳が子どもたちの食育としてどうなの」などの声があつたとして、試験的だが食材から「牛乳」を外すとの報道があり波紋を呼んでいる。

牛乳の栄養的価値特にカルシウムやたんぱく質など含有成分を今さら否定する理由も見当たらない中で、単なる感覚で提供をやめることなど、是々非々もないと思うが、本町では来年度から「完全米飯給食」になるが、仮の話として同様の発言が出たとするなら、当局はどう考えどう対応するのか。

答

(教育課長)

仮の話であつたとしても町ではやめることはない。牛乳が合わないことはイメージ的なことであり、個人的にもそのように考えていない。

どうする！町の人口減少

長期的な「地域創生」の展望

答 まず企業誘致と働く場の確保に全力をあげていく

問

日本創生会議はこのほど、日本の自治体が近い将来に半減し厳しい人口減少を招くと警鐘を鳴らしたが、本町も決して対岸の火事と思いたくはない。

国は地方創生に本腰を入れ、3兆9千億円もの予算を組むとの報道もある。多気町も長期的な展望をもつて取り組む必要があるが、町長に多気町版地方創生の考え方の見解を伺う。

答

(町長)

色々な考え方、見方はいっぱいある。現在の町の運営課題からみると、今は企業誘致が一番と考え一生涯懸命取り組んでいる。

また、私の七つの公約以外で、新たに欲張った政策目標の一つに人口減と町の活性化、特に町外への人口流出を減らす施策を押し進めていくこと。そして、もう一つ農業への就農支援、具体的な方策として若者の新規就農、定年(者)就農などへの取り組み支援を考えている。その他、地域・地区のインフラ整備など振興施策を充実させたいと考えている。

「ごはんを食べよう」と 条例制定を考えてはどうか

答 条例制定はしないが、町産米の消費拡大運動を行う

問

国も消費拡大に力を入れている。町も来年4月より学校給食を、3から5食への米飯とするが、保護者の理解、給食センターの体制は整っているのか。また、どれだけの消費拡大が見込めるか。

答

(教育課長)

保護者に通知を配布したが、現在何も意見が無く理解頂けたと考える。センター炊飯設備も25年の改修で問題はない。消費増は8tと考える。

問

給食の増加分を国が全量無償補助をするが、利用の考えは無いのか。主題の条例を制定し、町民の意識を高め消費拡大し、農業からも元気な町を考えると考えるがどうか。

答

(町長)

町産米の地産地消を考えるので国の無償補助には取り組まない。
条例制定はしないが、まず、学校給食全食米飯とし、町産米消費拡大を推進する。

前川 勝議員



地産地消の推進「ご飯を食べよう」

増水河川、災害対策を

答 河床土砂の取除き、道と川との境界嵩上げで対応

問

台風11号で県全域に大雨。特別警報が発令されたが、当町は30分遅れでの放送であった。何故、即時に行わなかったか。

答

(建設課長)

佐奈川は松本橋・前村公民館前両井堰による水位上昇で、家屋浸水の心配があるが対応は。

答

(総務課長)

町内の気象状況はそれほど悪く無く、調査し検討していたが、30分後に混乱を招くと判断し

放送した。

河床浚渫、川との境界嵩上げ等に対応している。井堰改良には多額の費用が掛かり、地元と協議。



浸水の可能性が高い佐奈川松本橋付近

下水の接続率向上は

答 接続の周知啓発・戸別訪問等行う

問

公共・農集は、3年以内の接続義務があるが、戸別は無く接続の義務付けが必要ではないか。

答

(上下水道課長)

区長さんに協力依頼、戸別訪問等の実施。いまのところ接続の義務化は考えていない。

設置に関し、負担金が公共・農集は20万円で、戸別は工事費の10%と平等性に欠けないか。

公共・農集は事業費の負担分との考え、戸別は土地面積・人員数で費用が変わるため、工事費の1割負担と定め運用。

多気町の定住促進施策を問う

答 ミニ団地やアクセス道路充実を事業所へ声掛けする

松浦 慶子 議員

問 多気町では定住促進のためさまざまな取り組みや企画があるが、このことについて町長の考えは。

答 (町長) 働ける場所、憩いのある癒しの町、生きがいのある町である

ことを中心に考えている。

相可台住宅団地にはまだ200戸以上の空き地があるのでその促進や、各地域からの住宅施策要望の思いを民間事業所へも声をかけ、町の施策と併せて町づくりをしたと考えている。



定住促進のシンボル。
相可台の多気町モニュメント＜波動の塔＞

小学校(4校)統合におけるアンケート結果はどのように

答 現在の子どもの状況を考えてももう少し検討協議が早まるかも

問 約10年後を目途に小学校(4校)統合についてのタウ

ンミーティングでのアンケート結果をどう考えるか。

答 (町長) 統合すべきが52%、すべ

きでないとどちらともいえないが

47%である。今後の子どもの人数や、各学校の施設や設備またプールの老朽化、子ども達の安全、安心を現在の状況から考えると、もう少し早い段階で検討すべきだと思つ。

他市町村への※ベンチマーク実施を

答 将来的に空き教室や余裕教室が発生した場合ベンチマークを行う

問 今後増えてくるだろう学童保育問題や病児保育など他の地域が行っていることをベンチマークしてはどうか。

答 (町長)

現在の学童保育(児童館)運営はベンチマークした結果だと

いえる。病児保育は平成22年より

用語の説明

※ベンチマーク＝他の優れた具体的な事例を分析・比較し現行を改善し、より良いものとする方法

多気駅周辺開発を問う

答 難しい課題は多くあるが前向きに推進していきたい

坂井 信久 議員

問 多気町の玄関口と言われる多気駅周辺の開発について、十年以上前に周辺五地区より要望書が町に提出されていた。その後建設委員会も発足したが、全く進んでいない。当時は県道の付け替えも含んだ計画となっていたが、地元説明会後の経過及び町はこの問題をどの様に考えているのか。

答 (町長) 多気駅周辺が良くなれば多気はもつと良くなると思っているが地元の人々の積極的な声がない状況である。
地域に合った開発を考えて出来るところから改善したい。

答 (建設課長)

平成21年度より区長に参加を得て「多気駅周辺町づくり委員会」を開き開発を協議してきた。多気区については都市計画で整備したいとの提案をしたが同意を得られなかった。駅前ロータリーについても地区内の排水対策が先という事で同意が得られなかった。

県道付け替えについても、今後ルートを検討、地権者の同意について協議していきたい。



周辺開発が進まない多気駅前

洪水時の多気地区 周辺対策の認識を 問う

答 詳しく調査して問題解決に努力する

問 八月の台風十号の時、多気区の道路が約二十センチほど浸水して困った地域があった。

大水時には、多気区南部の一部が排水路の水位上昇とともに、浸水する。また、佐奈川に架かる新橋付近でも同様である。調査及び問題解決を問う。

答 (建設課長)

この問題は把握している。圃場整備後に何らかの原因でこうなったようだ。佐奈川の問題とともに詳しく調査して問題解決に努力する。

答 (副町長)

町としても排水対策に取り組んでいる。現地確認の上、一層努力する。



大雨時には道路が冠水、浸水におびやかされる多気地区

「その他の質問」
◎県道松阪度会線（野中～多気間）について

香肌奥伊勢資源化広域連合（RDF 広域連合） 松阪市の脱退協議が合意。その経緯

現在のRDF広域連合は、松阪市、大台町、大紀町、多気町の一市三町で構成し、松阪市飯南町、飯高町、そして大台町、大紀町と多気町の勢和地域の一般廃棄物のゴミを固形燃料として製造し、桑名市にある県企業庁の発電施設で燃料として処理している。

このような中、合併後の松阪市において市内のゴミを一箇所で焼却処理するゴミ処理の一元化が計画され、平成24年に平成27年より、当広域連合からの脱退届が出された。

当広域連合は、平成32年度まで丹生にある施設でゴミ固形燃料化処理を操業していくので、松阪市の脱退で残る構成3町に不利益が生じないための脱退一時負担金が発生する。

また企業庁のRDF発電事業を円滑に運営するため、県と県内RDF製造5団体で構成する「三重県RDF運営協議会」においても同様の脱退負担金が生じることになる。その根拠、金額について、長く協議が重ねられてきたが、関係双方の話し合いが付き、県RDF協議会では、8月27日の理事会で脱退とそれに伴う負担金の決議がなされた。

それに伴い当広域連合においても9月1日に脱退に伴う覚書が締結された。これにより今後は、関係法ならびに定めによる手続きが構成市町で進められることとなる。

脱退に伴う覚書の概要

・広域連合からの脱退に伴う松阪市の負担金

5億8,353万2,935円

（内訳）

広域連合運営経費

3億3,250万6千円

（借入金償還分

1億 123万1千円）

（経常経費分

2億3,127万5千円）

精算にかかる経費

6,069万9千円

（資源化プラザ撤去費分

5,592万3千円）

（エコランド維持管理費分

477万6千円）

財産処分の松阪市への分配金

483万円

県RDF運営協議会脱退負担金

1億9,515万7,935円

・今後の進め方

松阪市は9月議会において、「連合からの脱退負担金」を補正予算として議決するとともに連合規約の改正を議決する。（決定）

多気町、大台町及び大紀町の3町は、12月議会において、連合規約の改正を議決する。そして連合は、平成27年3月までに三重県の許可を得る。

香肌奥伊勢資源化広域連合とは

平成12年に旧飯南町、旧飯高町、旧勢和村、旧大台町、旧宮川村、旧大宮町、旧紀勢町の旧大内山村8町を構成団体とした一般廃棄物のゴミを処理する広域連合が発足し、平成13年4月より丹生において稼働期間を平成32年度までの20年間とし運営を開始した。そしてその後の市町村合併により現在の一市3町の構成団体となった。

三重県RDF運営協議会とは

RDF事業は、県のRDF化構想に基づき県においてRDF発電所を整備し、RDFを有価として扱う計画であったが、法改正による売電収入の減少や、ダイオキシン対策などの経費の増から、平成14年の稼働時より、RDF処理費としての負担が必要となった。

そのような中、RDF焼却・発電施設及びRDF化施設の円滑な運営を図るため、県及び関係するRDF製造団体、そしてそれを構成する市町村による協議会がつけられた。

私たちが議会広報誌の編集を 担当・皆様にお届けします

議会広報広聴特別委員会

私たち6名は、議員改選後の8月より、議会広報広聴特別委員会として「議会だより」の発行を今後約3年半の間担当していきます。

今期からはこれまでの広報誌の発行に加え、議会改革の一環として新たに『広聴部門』を設置、町民の皆様からのご意見やご提案などを広くまた積極的に受け入れて活用していこうと思っています。

今後どのような方法手段で進めていくか、議会運営委員会との連携をとしつつ、議会の独自性ある内容にしたいと考えていますので、皆様のご協力ご支援をいただきますよう、よろしくお願ひします。

委員長 中森 一秀



副委員長 前川 勝
委員長 中森 一秀
委員 吉田 勝
委員 山際照男
委員 松浦慶子
委員 松本敏明

次回定例会の予定

開催日時

平成26年 第4回定例会 12月11日(木) 午前9時から
庁舎2階 本会議場で行います。皆様、傍聴にお越し下さい。

一日目の町長提案理由説明と、一般質問は多気町行政チャンネルで生放送します。

一般質問は後日録画放送します。録画放送日時等は決まり次第、行政チャンネル画面でお知らせします。

議会のうごき

● 9月 September

- 1日 議会だよりたき34号の発行
- 4日 松阪地区広域衛生組合議会
- 4日 松阪地区広域消防組合議会
- 10日 議会運営委員会
- 17～26日 第3回議会定例会
- 26日 議会広報広聴委員会
- 29日 例月検査(松阪地区広域衛生組合)

● 11月 November

- 4日 松阪地域防災総合事務所管内人権
トップセミナー
- 6日 第49回多気町肉牛共進会
- 10日 町村議会議長会
(県関係部長との意見交換会)
- 11日 議会マネジメント研修

● 10月 October

- 1日 議会広報研修会
- 6日 松阪飯多農業共済事務組合議会
- 7日 多気町松阪市学校組合議会
- 10日 議会運営委員会
- 14日 議会広報広聴委員会
- 14日 鈴木知事との意見交換会
- 16・17日 監査委員研修
- 24日 自治体議員研修
- 27日 例月検査

- 12日 第58回町村議会議長全国大会
- 12～14日 定期監査
- 25日 例月監査
- 27日 町村議会議長会
(県議会に対する要請活動)

多気のまちかどから

Vol.11

我が家は「ツイン」小戦争中

5歳の男の子と1歳半の女の子の
双子誕生で一挙大家族に！



多気町土屋
田村 香里さん

◆双子2兄妹の誕生 今の心境は

☆現在、育児休業中ですが、4人の子どもたちと過ごす毎日は楽しいです。でも現実には相当疲れますネ。笑 時には息抜き時間もほしいので、母に子どもたちをみてもらい、趣味の家庭菜園や洋裁に没頭、美容室にも出かけます。子どもと離れる少しの時間がとても貴重です。

◆子育ての中でたいへんなことは

☆たいへんなことは、上の5歳の息子たちが私の言うことを聞かないことです。双子でお互いに影響しあい、はしゃぎ回って叱りきれないことです。



田村家全員そろってパチリ

◆子育てで大切だと思っていることは何ですか。

☆子ども一人ひとりの言葉に耳を傾けて聴いてあげる。例えば、叱られたことの理由を聞いてあげることが大事だと考えています。

◆育児について、誰かに相談をしますか。

☆母は保育士だったので、子どもの心や行動をよく知っています。こころ強い味方ですね。

◆二人目？も双子だとわかった時の心境を思い出して下さい。

☆初産が男の子のツインでしたので、2産目は女の子がいいなとは思っていました。ですが今度はまさかの「双子の女の子」誕生だったので本当にびっくりしました。でも嬉しかったです。



奈子ちゃん
優子ちゃん

元気に動きまわる
子供たちに写真
撮影は、てんやわ
んやでした。



悠くん
陵くん

◆インタビューのつづき

おうちの中は子ども達の歓声でいつも賑やか大家族。みんなの笑顔がほころぶ田村家。

旧型の乳母車を転がし散歩中の若いおばあちゃん、知らず知らずに笑顔で鼻歌まじり。

パパはイクメン！おじいちゃんはこのこ顔のイクジイでした。

◆最後に、多気町の子育て支援を語ってもらいました。

☆子育て支援センターはよく利用します。ママ友ができるし私にはプラスでした。クリスマス会などの行事をいっしょに仲良くやれて良かったです。

できれば、雨の日の休日にな族みんなが遊べて過ごせる場所があればいいなと思っています。

たきの風

▼小中学校での「道徳の教科化」を中教審が答申した。子ども的人格を18年度から教科として評価する方向だ。

▼評価することの是非を云々することは差し控える。

▼日本の社会は今、人の道すなわち道徳が地に墜ちた感じが強い。自己中心で相手への思い遣り・対面者の立場を判別する能力の欠如が甚だしい。

▼その最たる例として、「危険ドラッグ」の誘惑と欲望に負けたのち両親を殺害する事件が起きた。このようなことがあつてよいはずがない。明らかに人の道はずれていくのだ。情けない。

▼人間には、自制自律の心、耐え忍ぶ力は誰も先天的に備わっているはず。家庭での両親あるいは祖父母らの共生環境・影響力に左右されるのでは。昔の三世大家族との同居が崩壊してしまったのは誠に残念である。

▼学校での人格形成もまた重要だ。地域の人も、日々子どもたちにもっと声を掛けてはどうか

(中森)